

され、ハイパーメディア（動く絵本）の説得力を実感させられました。

## 2. 懇親会

10月9日の夕刻に開かれた懇親会は、オープンしたばかりの恵比寿ガーデンプレイスを眼下に見おろし、遠くにはレインボーブリッジも臨むことができるといった素晴らしい会場でした。セレモニーは、高森実行副委員長の司会のもと、阿部実行委員長、三輪青山学院大学副学長の挨拶があり、森村英典元会長の乾杯と続きましたが、乾杯の時点ですでに水割りので気持ちよくなりつつある参加者も少なくなかったようです。会場は食べ放題ということで、食べても食べても次々と出てくる多品種多量のご馳走に、これがOR学会の懇親会だろうかと思いの声を上げる人もいました。会場にはいくつもの話の輪ができ、直前のパネル討論で梅沢副会長の話に出た天動説・地動説が話題になっているグループがあったり、午後の部をスキップして懇親会に戻ってきたUターン組があったりとさまざまでした。終り近くには、7年3月末に広島修道大学で予定されている春季研究発表会の実行委員長である尾崎俊治氏（広島大学）や眞鍋龍太郎氏か

らの挨拶があり、参加者は予定の8時30分まで楽しく、かつ、今回から1000円値上げされた懇親会費に見合った（あるいはそれ以上の）価値をお腹に入れたという満足感を持ちつつ帰途についた素晴らしい懇親会でした。

## 3. 見学会

10月11日に開かれた見学会は、午前中、NHK放送センターを訪問し、NHKの情報システムに関する説明を聞いた後、番組送出センターといくつかの放送スタジオを見学し、その後、カナダ大使館の地下1階にあるプライベートクラブ「シティクラブ・オブ・東京」でのゆったりとした気分での昼食というコースでした。

このルポ作成にあたって快く協力くださった皆様へ感謝の意を表します。紙面の都合でルポメモを削除してしまったり、すべてのお名前を附すことできなかった多数の方にお詫びします。

（阿部威郎（NTT通信網研究所）、石川明彦（岩手大）、今泉淳（早稲田大）、枇々木規雄（慶應大）、岩城秀樹（南山大）、大村雄史（近畿大）、逆瀬川浩孝（早稲田大）、田部勉（青山学院大）、森戸晋（早稲田大）他）

## 小野木次郎先生を憶う

工学院大学名誉教授 矢部 眞

小野木次郎博士は平成5年10月8日、腎不全で逝去された。85才。逝去前約10年間、入・退院を繰り返されており、隠退生活のためすべての学会を退会されていた…

学会では昭和34年度（以下、昭和は略）副会長を1年間勤められ、退任後フェロー第1号の1人。当時、会長（第3代原田庸二氏）、副会長2人（もう1人は東レの袖山喜久雄氏—在任中死去—）で任期は1年。この時かねて懸案だった日本科学技術連盟からの独立の実現という大仕事をされた。実際には、その前に国鉄審議室（長期計画）の改組があり、ORセンタを設置。担当者として横山勝義氏に…。併せて同氏を学会常務理事（庶務）として実現されたわけである。

小野木さんは7年東京帝大土木卒、鉄道省へ。保線（線路保守）一筋。“軌道狂い指数”というモノサシを設定され、軌道状態の実測による数量化。さらにQCの手法（分布）で保線の合理化。土という自然相手のため、確率過程論まで独学で…。学位もこの関係。逝去直前まで勉強されており頭が下がった。

初めてお目にかかったのは31年で副技師長。日科技連第4回OR教育コース参加希望者のテストのため（この時、本社からは土木、機械、電気から各1名、技術研究所より5名、中央鉄道学園1名）。1日中、マルコフ過程の話がされるのでびっくりした。さすがに国鉄だと感心した次第。その後、施設局長、監査委員をされ、37年国鉄を退職。新幹線保線作業の機械化のため設立された日本機械保線KK（社長は43～54年）、子会社の日本線路技術KK（社長は55年）も…。53年に勲三等旭日中綬章受章。

副技師長時代に、学会設立発起人の1人として尽力。ORによる操車場の業務改善を河田龍夫博士に委託。同博士がこの結果を第1回IFORSで発表されたが、その渡航の便宜もはかられた。55年新宿ORクラブ発足時には、世話人の1人に…。

数年前、副会長経験者からも名誉会員となれる道が開かれた時、前記の事情でなっただけなかったことが残念でならない。

口の悪いこと。いつまでも青年のような若々しさ。約束は堅く守られ、後輩の指導に熱心等が特長。公私ともにお世話になった1人として、御高齢のため御逝去はしかたがないけど、やはり惜まれてならない。御冥福を心よりお祈り申し上げる。合掌。